



筑波大学メールマガジン“ペデじゃーなる” 2017年11月-秋号-
—OB・OGと学生を結びながら、懐かしさと新しさ香る筑波の風を季節の便りとしてお届け
していきます。

INDEX

1. 筑波大の秋／吉永真理

構内外の紅葉を写真に収めました

2. まぼろしの「春日キャンパス」／徳永翼

「キャンパス」なのか「エリア」なのか

3. 大学5年目の私が見た雙峰祭／寺尾侑子

大学生活5年目の私。初めて、ステージの演技を見ました

4. ミュージカル集団 ESSASSA の活動紹介／金久保響子

雙峰祭で公演を行いました！

5. 教育実習奮闘記／深作歩美

あくまで個人の感想です

6. 筑波大野球部の2人のプロ選手候補／前名裕一

卒業生がプロへの切符をつかみ取った一方、現役は涙を飲みました

7. 筑波山と詩歌／越智小夏

筑波山は文学の舞台としても有名です

1 筑波大の秋



こんにちは。秋も終わりに近づき本格的に寒くなって参りましたが、いかがお過ごしでしょうか。10、11月は新学期が始まるとともに、雙峰祭やその準備、スポーツデーなどイベントが多く、構内が活気づいた二カ月間でした。10月は台風の影響で雨の日が多かったものの、晴れた日は構内外の紅葉を見ながら通学することが小さな楽しみでした。紅葉の季節はもう終わってしまいましたが、今回は構内と大学周辺の紅葉を写真に収めたのでご紹介します。



赤く色づく陸上競技場横のケヤキ



第二エリアへ向かうけやき通りの夕方

上の二枚は、陸上競技場横から第二エリアまでを走るけやき通りのものです。等間隔に植えられた赤や黄のケヤキ。筑波大が移転する前、この辺りには薪の材料としてクヌギやナラが植えられていましたが、1960年代後半以降、薪の需要が減少したため、移転時にそれらの樹木を伐採し現在ある樹木を植え直しました。

よく見ると、テープでマークしてある樹木が何本かありました。樹木毎にナンバリングされているため、樹齢や成長率の測定で生命環境系の研究に使われているのではないかと、思いました。実際、知り合いの話によると、植物病理の研究室などで学生の卒業研究の材料に構内の街路樹が用いられているそうです。生物系の研究者にとっては筑波大のいたるところが研究の場になっているのだと改めて感じました。

構内だけではなく、大学周辺の大通りでも紅葉を楽しめます。つくば市は環境や景観を保全することに力を入れており、今年3月には市内の街路樹をより健康に、美しくするための「街路樹の維持・再生計画」が策定されました。



青空に映える平塚通りのイチョウ並木



「日本の道百選」に選ばれた東大通りの紅葉

筑波大生に馴染みが深い、第一エリアと大学会館の間にある平塚通りや学園東大通りでは圧巻のイチョウ並木が見られます。どちらも美しい道で、学園東大通りは「日本の道百選」に選ばれている程です。現状でも十分管理されていますが、「街路樹の維持・再生計画」を読むと、学園東大通りに関して「これから植える中低木は1年を通して楽しめる花などを選ぶ」、平塚通りを含む土浦境線については「運転手や歩行者の見通しを確保するような工夫をしていく」など、街路樹をさらに良くするための細かい分析や改善策があることが分かりました。

私たちは普段何気なく街の街路樹を觀賞していますが、色鮮やかで均整のとれた美しい道の裏にはそれ相応の工夫や都市計画が存在するのだと実感しました。

大学構内やつくば市内の街路樹は本当に素敵なもので、今回紅葉を見て回ってその思いはさらに強まりました。都内などにも多くの紅葉スポットがありますが、今後、みなさまの

秋のお出かけ先の候補につくばが加わると嬉しいです。

(生命環境学群生物学類2年 吉永真理)

2 まぼろしの春日キャンパス



筑波大ではよくこのような言葉を耳にする。「この前、春日キャンパスで授業があったんだけど、遠すぎて授業間に合わなかった。」

大方、この話している人物は人文学類生であったり、生物学類生であることが多く、知識情報・図書館学類生などのいわゆる「春日民」であることはまずない。

そして、多くの場合、「春日民」が言葉を訂正しようとする。「いや、春日キャンパスじゃなくて春日エリアだから。」

ピンとこない方のために、念のため説明を入れると、「春日エリア」とは2002年に筑波大と合併した旧・図書館情報大学の敷地のことだ。筑波大はほかにも旧・東京教育大学時代からの敷地である東京キャンパスを持っているが、こちらは「キャンパス」。春日エリアはあくまでも、筑波キャンパスの中の「春日エリア」という立ち位置のようだ。

◆ほんとうに「春日キャンパス」はないのか

呼称について筑波大のホームページで確認してみると、やはり表記は「春日エリア」が多い。「春日キャンパス」と呼ばれて心外な学生が多いということも頷ける。ただ、「春日地区」

などの表記もあり、その呼称が統一されているのかは不明だ。そして、気になる「春日キャンパス」の表記だが、なんと大学ホームページ内にいくつも存在した。確認できる範囲で61件あった。これらの表記の多くは、バスでキャンパスを訪れるときに『筑波大学循環バス「筑波大学春日キャンパス」』の利用を勧めるものだった。

春日エリアにあるバス停は「筑波大学春日エリア前」のはずである。これは果たして誤記なのか。それとも、「春日キャンパス」は存在するのか……？ 実際に自分の目で見てみると、春日エリアを歩くことにした。

◆春日エリアを歩く

9月のある金曜日の午後。のどかな秋風が吹く中を探索してみることにした。とはいうものの、エリア内を歩き回るだけのことだ。たまに用事があると来ることもあるので、別段不案内ではない。ただ、今日は「春日キャンパス」の表記がないか探すのだ。

中央公園側の入り口から入ろうとすると「春日エリア」と石に彫られた大きな文字。案内板には「春日地区」と書いてあった。さて、じゃあ建物はどうか。

結論をいうと、「春日エリア」「春日地区」「春日キャンパス」などの表記はほとんど見られなかった。当然と言えば当然なのだが、わざわざここがどこかを示す必要がないのだ。電柱に「つくば市天王台」と書いてあるときは、ここが日本だということはわかりきっているというのと同じ原理だろう。そう思いながら、歩いていると「春日キャンパス」の文字を意外なところに見つけた。ゆうちょ銀行のATMである。入口の自動ドアには「ゆうちょ銀行さいたま支店筑波大学春日キャンパス出張所」とある。なぜさいたま支店なのかも疑問だが、明らかに「春日キャンパス」の文字がそこにあるのだ。



◆公式文書にも「春日キャンパス」

中央図書館に所蔵されている「本学関係資料」に何か書いてあるかもしれない。そう思いいくつかの本をパラパラとめくっていたら、思いのほか簡単に興味深いものを見つけることができた。筑波大の企画部広報課が発行した「学報 No.343」である。平成 15 年 4 月 16 日とあるので、筑波大と旧・図書館情報大学が合併してすぐに作られたものであろう。

目次を見ると法令や省令、告示などをまとめて掲載する非常に重要な文書らしいということが見て取れたのだが、その上に一枚の写真があった。キャプションには「撮影場所：春日キャンパス講堂」の文字。こうした文書に間違いがあるとは思えない。もしや、春日キャンパスは本当にあったのではないか。それが何らかの理由で現在は改名されたのではないか。そんな思いが頭の中をよぎった。

◆春日キャンパスよ永遠に

謎が深まる中、有効な手がかりが掴めず時間だけが過ぎた。知り合いの大学職員 A さんと話していた時に、ふとその話題になったが「春日エリアが正しい表記と聞いたことがあるが、どうしてその表記になったかわからない」とのこと。ホームページやパンフレットなどを引き続き読み漁るも、「春日エリア」「春日地区」「春日キャンパス」の表記が入り混じるばかり。しかし、逆説的に分かったことが一つある。旧・図書館情報大の敷地は 10 年以上さまざまな呼び方がされてきたということだ。

ありきたりな結論になってしまったが、これが母校を思い出すきっかけになってくれればうれしい。ここ数年に限っても筑波大やそれを取り巻く環境は大きく変わった。シェアハウス型の宿舎やキッチンカー、移動スーパーの運行も学内で始まっている。もし、筑波大のいまが気になったら、あなたもキャンパスに足を運んでみませんか。

(日本語・日本文化学類 3 年 徳永翼)

3 大学5年目の私が見た雙峰祭



読者のみなさま、こんにちは。一日の始まりの冷え込みが厳しくなり、朝なかなか布団から出られない季節が訪れつつあるのを感じています。みなさまは朝、しゃきっと起きられますか？ 私は冷えが辛いので、家にある愛用の湯たんぽをそろそろださねば、という思いです。

さて、11月の筑波大学のイベントといえば雙峰祭でしょうか。2013年より大学の二期制移行に伴い、雙峰祭は10月から現在の11月に開催されるようになりました。読者のみなさまは、10月開催になじみのある方のほうが多いかもしれません。今回は、「大学5年目の私から見た雙峰祭」について書いていきます。

今年の雙峰祭は11月3日から5日にかけて開催されました。途中、雨がパラパラと降った時間帯もあったようですが、日中はおおむね暖かく過ごしやすい天気だったように思います。まさに今年のスローガンにふさわしい「筑波日和」な3日間でした。

さて、雙峰祭について書こうと決めたのに、実は雙峰祭の記憶は私の中で少し薄めです。というのも、毎年ちょうど雙峰祭の日程と被って部活の大会に参加していたのです。去年は大会の日程がずれて参加できたものの、掛け持ちしているサークルの出店で見学どころではなく、じっくり見られたのは今年が初めてでした。その中で、何となく見ていたステージに印象に残った演技がありました。

それは、たまたま通りがかった「斬桐舞」という50名ほどでソーラン節を踊るサークルの演舞でした。私は初めて彼らの舞台を見たのですが、それはもう圧倒されるような踊りでした。そろった腰の高さや指先までまっすぐ伸びた手が、とても美しい演技。でも、圧倒されると感じた訳はそれだけでないような気がしました。もちろん、人数が多かったからという事実だけでも説明できません。

今ならうまく言葉にできますが、あの時、私は彼らの演技に「積み重ねてきた時間」を感じていたのだと思います。大人数で振付をそろえるには、多大な時間と努力がいり、笑顔で踊るには余裕が生まれるくらい繰り返し練習が必要です。そう思うと、一つ一つの動作の裏に彼らが演技のために積み重ねてきた時間が見えてきます。圧倒されたのは、そういう時間に気が付いたからでした。

サークルによっては雙峰祭で執行代が引退するところもあり、斬桐舞も雙峰祭でのステージが現行体制での最後の舞台だったようです。この1年間を今日のこの瞬間のためにやってきた、そういう気持ちが端々から感じられる演技でした。大学生活も5年目となると友達の「雙峰祭で〇〇やります！」というSNSでの投稿もほとんどありません。当初は何と

なくさみしさを感じていましたが、最後の雙峰祭でとてもいい舞台を見ることが出来ました。

さて学祭も終わり、季節はいよいよ冬へと突入します。私の学生生活も卒業論文の提出を残すばかりとなりました。あのステージとはまた別ですが、卒業論文も「時間の積み重ね」です……。なんてことをたった今思いついてしまったので、ちょっと書いてみたのですが、提出時に心の底からそれが言えるように精進します。では、読者のみなさまもどうぞ自愛くださいませ。

(社会・国際学群国際総合学類4年 寺尾侑子)

4 ミュージカル集団 ESSASSA の活動紹介

すっかりコタツと鍋が恋しい季節となってきましたが、読者の皆さまはいかがお過ごしでしょうか。私はミュージカル集団 ESSASSA というサークルに所属しています(前号の私の記事を覚えていらっしゃる方はお分かりになると思いますが……)。今回の記事では、この ESSASSA の活動報告を行おうと思います。

筑波大学では11月上旬に一大イベントである雙峰祭が行われました。私たち ESSASSA は、この雙峰祭で教室を借り1つの公演を行いました。今回の公演は既存の台本を使ったものではなく、団員が作ったオリジナルのものでした。公演の内容はミュージカルナンバーショー、題目は「Liamana-ある町の日-」というものです。「Liamana」とはある架空の町の名前です。「Liamana」に住む人々は少し風変わりで、歌って踊ることが大好き。この公演では、この「Liamana」に住む人々が歌って踊るという設定で様々なミュージカルナンバーを披露しました。

上の写真は舞台全体を撮ったパノラマ写真です。丸1日かけて舞台を組み立てました。普





段授業を受けている教室がここまで変身するとは驚きですね！この舞台に照明がつくとより雰囲気が出て、さらに衣装を着てメイクを施したキャストが立つと本当にこんな町があるのでは、と思ってしまうます。

雙峰祭で行う公演は普段行う公演とは異なり、たまたま立ち寄っただけのお客さんもいます。

そのような方がふと教室の前を通り、興味を持って立ち寄ってくださるのはとても嬉しいことです。おかげ様で、3回公演とも満員御礼で、満員のため申し訳ないことにお見せできなかったお客さんもたくさんいらっしゃいました。学祭のパワーは凄まじいですね。

実は、恥ずかしながら私は、2人の同期と共にこの公演の演出をさせていただきました。私は高校の頃からミュージカルをしていたのですが、演出を経験したのは初めてのことでした。この公演に関わってくれたスタッフやキャストの方は全て演出の指示のもとに活動する訳ですから、とんでもない大役です。私は仲間たちの援助のおかげで無事公演本番を迎えることができ、千秋楽でライトをあびるキャストたちに贈られる大喝采を聞いたときはこれ以上ないほどの感動を感じました。誰もが楽しめるミュージカルは本当に素晴らしいものです。

今回の記事では雙峰祭で行った公演についてご紹介致しました。ESSASSAは年に3回の公演を行っています。この記事を読んでESSASSAが行うミュージカルに興味をもっていた方は、ぜひ会場まで足をお運びください。次回公演の詳細は公式ホームページにてご確認ください。ここまで、読んでいただきありがとうございました。

ミュージカル集団 ESSASSA 公式 HP

<https://essassa.jimdo.com/>

(人文・文化学群比較文化学類4年 金久保響子)

5 教育実習奮闘記



皆さま、いかがお過ごしでしょうか。私は9月1日から22日まで、某進学校で教育実習を行いました。

そこは東大進学率が高い学校です。頭の良い生徒が多いため「教育実習生は泣かされるよ」と聞いており、覚悟して臨みました。

教育実習で私は高校1年生の生物基礎の生態系分野を担当しました。4クラス×2時間授業×週3回で、計24時間授業しました。最初の2時間で生態系の知識を教え、次の2時間で植生調査を行い、最後の2時間で植生調査の結果を生徒に考察・発表させる、という流れでした。

授業準備の大変さは想像をはるかに超えていました。指導案や授業プリント、授業スライドの作成、課題採点はもちろん、知識を補てんするために大学レベルの内容の少年ジャンプ位の厚さの本を数冊読んだり、まったく知らない植物の名前を約20種、見分け方も含めて暗記したり、植生調査するための枠を作ったり……。あまりの大変さに、他の教育実習生から心配されるほど、追い詰められていました。

入念に準備して臨んだつもりでの授業でしたが、最初の頃は全くうまくいきませんでした。下ネタを連呼されたり、反抗的な態度を取られたり……。一番辛かったのは、生徒が授業の上げ足を取ることです。一人の生徒が先生を舐めると、クラスの雰囲気は最悪になります。生徒に受け入れてもらえず、心が折れそうになりました。

しかし、回数を重ねるにつれ、授業に耳を傾けてくれる生徒が多くなっていきました。「最初はどんな先生か、生徒も色々試したのでしょうか」と先生に言っていただきました。生徒に認められたのかも、と思うととても嬉しく思いました。

そして、最後の関門が研究授業です。研究授業とは教育実習の成果を色々な先生に見せるものです。私は物理・化学・地学・生物・国語の計7名の先生方に見ていただきました。研究授業は植生調査の結果を生徒が考察し、発表するという内容でした。教師は主に進行役をするという、教育界で注目を集めている「アクティブラーニング」形式です。そのため、研究授業を行うクラス選びは重要でした。私はHRを担当したクラスを選びました。そのクラスの生徒は生物が苦手な人が多い印象だったのですが、掃除を一緒にしたりして距離が縮

まったと感じていたからです。研究授業当日は、生徒はみな熱心に授業に取り組んでくれました。考察では大学で扱うような考え方に気付く生徒も多く、とても充実した授業となりました。授業検討会では、先生に笑顔で「良い授業でした。感動しました」と言ってもらい、嬉しかったです。

辛いことも多くありましたが、振り返ってみるとあっという間の3週間でした。今では生徒を我が子のように感じます。特に、HRを受け持った生徒は私を「生物のプロ」と言って慕ってくれ、思い入れは強いです。きっと、今後は関わることはありませんが、楽しい学校生活を送り、成長し、夢を叶えてくれることを願っています。

教育実習を行って感じたのは、「生徒と教師の信頼関係の大切さ」です。生徒は「教師」だからではなく、「信頼できる」から話を聞いてくれるのだ、と痛感しました。私は今、卒業研究に取り組んでいます。まもなく卒業研究も佳境に入ります。指導教官との信頼関係を大事にし、頑張りたいと思います。

(生命環境学群生物資源学4年 深作歩美)



6 筑波大野球部の2人のプロ選手候補



去る10月26日、プロ野球ドラフト会議が開かれ、多くの選手がプロへの切符を手に入れました。今年も高校通算111本塁打を放った早稲田実業高校の清宮幸太郎選手や、夏の甲子園で活躍した広島・広陵高校の中村奨成選手など多くの注目候補がいましたが、筑波大にもドラフト候補がいたのはご存知でしょうか。

硬式野球部に所属していた大道寺拓選手（体専4年）です。大道寺選手は入学当初は内野手でしたが、野手としての成長に行き詰まり、転向するか否か悩んだ末に大学2年の夏に投手へ転向しました。そのため投手としての経験は浅いものの、急激な成長を見せ、転向直後から試合で投げることもありました。私は大学新聞の野球担当として大道寺選手の投球を目の前で見てきました。140キロ台後半の勢いのある直球は経験の浅さを感じさせず、また多くの試合で先発を務めた大場遼太郎選手（同4年）にも負けない実力の現れでした。

大道寺選手は東大の宮台康平選手同様、国公立大学から久しぶりのプロ候補として注目

されました。そしてドラフト会議当日、私もネットでドラフトの動向を見守り、大道寺選手の指名を期待しました。ですが、残念なことに宮台選手は日本ハムから7位指名を受けたものの、大道寺選手は指名されませんでした。大道寺選手は必ずプロ入りすると信じていたため、大きなショックを受けました。

大道寺選手が指名されなかった一方で、筑波大OBの選手がプロへの切符をつかみ取りました。筑波大を卒業後、プロへの道をあきらめきれずに独立リーグ・石川ミリオンスタースで野球を続けた寺田光輝選手（平成27年度体育専門学群卒業）です。寺田選手は筑波大卒業後石川ミリオンスタースに入団し、主に最終回を投げる「守護神」として活躍しました。その活躍ぶりから今年の注目候補として知られ、横浜から6位指名を受けました。筑波大からは2008年の坪井俊樹さん（千葉ロッテから4位指名、現仙台大学野球部コーチ）以来、9年ぶりのドラフト指名となりました。

現役からのプロ野球選手輩出、とはなりませんでしたが筑波大の卒業生から9年ぶりのプロ野球選手誕生といううれしいニュースがありました。また、大道寺選手は今後実業団からプロの世界を目指すとのこと。寺田選手が一軍のマウンドに立てる日を、大道寺選手がプロの世界に入ることを心待ちにしながら、これからのプロ野球を見守ろうと思います。

（社会・国際学群社会学類3年 前名裕一）

7 筑波山と詩歌



「芸術の秋」、「スポーツの秋」、「食欲の秋」……。秋を表す言葉は多くありますが、本好きの私にとって秋は、やはり「文学の秋」。ということで今回は、詩歌と、古代から多くの詩歌に詠まれてきた筑波山について話したいと思います。

筑波山は男体山と女体山からなる山で、「東の筑波、西の富士」と、富士山と並び称されるほど、古くから名山として親しまれており、たくさんの和歌や俳句に詠み込まれてきました。
正岡子規の

赤蜻蛉筑波に雲もなかりけり

が、一番有名でしょうか。また冬の句だと、与謝蕪村の

冬ざれや木々数うべき筑波山

も、名句として知られています。

そしてそんな、多くの有名な俳人が句の題材にした筑波山で、全国の大学生が集まり俳句を詠み合う合宿が10月上旬に行われ、私も参加してきました。合宿は、プロの俳人の先生方も招待した本格的なもの。関東の大学を始め遠くは岡山大学まで、文字通り全国から人が集まり、30人ほどの大所帯で筑波山にのぼりました。

道端で揺れる大きくて黄色いセイタカアワダチソウや、道路に転がった栗の実に心を留めつつ、参加者は皆思い思いに俳句を詠みました。恥ずかしいですが、私が詠んだ句も少しだけ紹介します。

たそがれて青いみかんの重さかな

秋澄むや名字すら変わる生き物

天高し君が代歌うペアルック

このように公園や神社などに出かけ、その場で俳句を詠むことを「吟行（ぎんこう）」と言うのですが、この「吟行」の古代バージョンとも言えるのが、男女が集まって歌を詠み合い、五穀豊穰を願う「歌垣（うたがき）」と呼ばれる行事です。

もちろん筑波山でも、「歌垣」は盛んに行われていました。日本三大歌垣と称されるほど、大規模な歌垣が行われていたようです。

万葉集の中にも、以下のような歌が載っています。

鶯の棲む 筑波の山の 裳羽服津の その津の上に

率ひて 未通女壮士の 行き集ひ

かがふかがひに

人妻に 吾も交はらむ わが妻に 人も言問へ

この山を 領く神の 昔より 禁めぬわざぞ

今日のみは めぐしもな見そ 言も咎むな

簡単に訳すと、「歌垣のため、筑波山に男女が集まった。私も人妻と関係を持つし、私の妻もだれかと関係を持てば良い。今日だけは誰も見とがめるなよ」という歌です。

ずいぶん過激な内容ですが、筑波山を詠んだ歌には、このように男女の関係や恋を詠んだ歌が多くあります。筑波山の一番の特徴ともいえる、男体山と女体山が寄り添うように並ぶ

様子に、古代から人は自らの恋を重ね合えたのかもしれませんが。

また筑波山は、上の句と下の句を2人で詠む、連歌発祥の地としても知られています。日本武尊（ヤマトタケルノミコト）と御火焼之老人（みひたきのおきな）が詠んだ最初の連歌に詠み込まれたというのがその由来で、和歌を「敷島の道」というのに対し、連歌は「筑波の道」と言います。

この記事を読んで、つくば市の代名詞ともいえる筑波山を思い出していただければ幸いです。筑波山に登ったことの無い人も、季節ごとに全く異なる表情を見せてくれる筑波山に、一度訪れてみてください。

（人文・文化学群比較文化学類2年 越智小夏）



・『編集後記』


秋も深まり、つくばでも朝晩は真冬のような寒さですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。ペデジャーなる秋号を最後まで読んで頂き誠にありがとうございます。

さて、今号もペデジャーなるでは、つくばの秋をさまざまな角度から皆様にお伝えすることができたのではないかと思います。美しい紅葉の紹介に始まり（秋の構内は本当に絵になりますね）、筑波の秋の風物詩・雙峰祭の記録、詩歌に詠まれる筑波山、などなど……。記事を読んでいると、メンバーそれぞれがどんなものに興味・関心を抱き、どんな時間を過ごしてきたのか、そんなことが垣間見えて、自分が知らないだけで筑波大にはこんなにも色とりどりの秋があったのだと驚かされます。

秋はあまりにも短いので、どうしても焦りや寂しさを感じてしまいます。しかし、誰もが同じようにそれぞれの日々を精一杯生きていることに気がついたら、何だか少し元気が湧いてくる気がします。

今号もペデジャーなるが、読者の皆様に少しでも元気を運ぶことができているのであれば幸いです。今号の編集に携わってくださった全ての方々、そして読者の皆様に心からお礼申し上げます。

（人文・文化学類比較文化学類4年 助川まりえ）

 筑波大学のいろいろな取組みのご紹介

<「筑波大学カード」について>

筑波大学公式クレジットカード「筑波大学カード」新規入会者募集中です！
平成 29 年 12 月 1 日から新規入会利用キャンペーン中！！



筑波大学
University of Tsukuba

4980 0123 4567 8901
4980 GOOD MONTH YEAR
THIRD YEAR 00/00
TARO KOKUSAI

VISA

新規入会
1,000円分
VJAギフトカード

新規入会者利用
(税込 5,000 円以上利用)
1,000円分
VJAギフトカード

合計
= 2,000円分
VJA ギフトカード
プレゼント

新規入会期間
平成 30 年 5 月 31 日まで / 新規入会利用期間
平成 30 年 6 月 30 日まで

※ギフトカードの発送は平成 30 年 8 月末に発送予定です。

インターネットからもお申込みいただけますので卒業生の皆様もぜひご利用ください！

* 筑波大学カードをご利用の場合 *

- ・ 利用金額の一部が筑波大学基金へ寄付
- ・ サービス協力店舗での優待利用可能

詳しくは、<https://alumni.tsukuba.ac.jp/cashcard.html>

をご覧ください。

<筑波大学×ボルドー大学オリジナルワイン シャトー・クーアンについて>



限定
販売

筑波大学×ボルドー大学 オリジナルワイン
シャトー・クーアン

Chateau COUHINS
Chateau COUHINS

本学とボルドー大学の連携協定締結を記念して、一昨年よりボルドー大学の提携研究機関であるフランス国立農業研究所（INRA）で醸造された希少なワイン「筑波大学×ボルドー大学オリジナルワイン」の特別ボトルを制作・販売しています。

今年度は、最上級のぶどうを使用した“シャトーの顔”というべきファーストラベル「シャトー・クーアン赤 2014」及び「シャトー・クーアン白 2014」を限定販売します。2014年は、ぶどうの出来が良く、ワインの品質が良いとのことで、今回の商品はプレミアム付きの逸品です。

特別ボトルのオリジナルラベルは、本学芸術系 原 忠信准教授がデザインしたものです。

本商品は、限定販売のため、本数に限りがございますので、ぜひ、お早めにお買い求めください。

ご購入に当たっては、株式会社カクヤス「購入サイト」からご購入いただけます。新規にご購入される方は、同社の会員登録（無料）が必要となります。

購入サイト：<http://www.kakuyasu.co.jp/news/feature/tsukuba/>

-  筑波大学 公式ホームページ: <http://www.tsukuba.ac.jp/>
-  筑波大学 facebook: <https://www.facebook.com/univ.tsukuba.ja>
-  筑波大学交流広場「KUTTUK ba」: <https://alumni.tsukuba.ac.jp/>
(筑波大学交流広場／筑波大学生涯メールアドレス 利用登録募集中!)
-  編集・発行:「ペデジャーなる」編集ワーキンググループ
-  デザイン・配信作業: 国立大学法人筑波大学事業開発推進室
-  ご意見・問い合わせ先: 国立大学法人筑波大学事業開発推進室
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1丁目1-1
TEL:029-853-2030 FAX:029-853-6576

メールマガジンの一部または全部を無断転載することを禁止します。

Copyright © 2014 University of Tsukuba. All Rights Reserved.